

(平成28年 5月分)

種類	市況の概況
(水産物部の動向) 水産物全般	<p>5月の総入荷量は、前年同月に比べると鮮魚は若干減少したものの、ほぼ前年並みであったが、冷凍魚、加工水産物は減少となり、全体として6%の減少となった。</p> <p>取扱金額は、鮮魚は前年並であったが、加工水産物が大幅に減少したことから、前年同月と比べ2%下回った。</p>
(区分別の動向) 鮮魚	<p>5月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ2%下回ったことから、平均単価は前年同月と比べ3%上回った。</p> <p>品目別には、よこわ、ひらめ、かます等が好漁で入荷が上回ったため、価格は値上がりした。またかつお、さわら、けんさきいか等は漁獲の減少で入荷が下回ったため、価格は値上がりした。</p> <p>6月には、はも、たこ、いさき、けんさきいか等の入荷が増える時期となり、あじ、すずき、あゆ等と合わせ夏向けの魚の出番となる。また6月から山陰沖海域での底引き網が約3か月間禁漁となり、中国船の東シナ海での操業も、資源保護のため中国が規制をかけているので、底魚のかれい類、中国産あまだい等の入荷が影響を受ける。</p>
冷凍魚	<p>5月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ14%下回ったことから、平均単価は14%上回った。</p> <p>品目別には、冷えびは価格が値上がりしたため、入荷は減少した。冷さばは原料となる大型サイズが少ないため、入荷は減少した。</p> <p>6月には、ロシアカムチャッカ海域、アラスカブリストル湾海域でさけ漁が始まり、7月後半までが主要な漁期となる。この期間の漁獲量により今後の価格が大きく左右される。</p>
加工水産物	<p>5月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ9%下回ったが、取扱数量の多い chirimen, 塩紅さけ等の高単価商材の入荷が大幅に下回ったことから、平均単価は前年並みであった。</p>

品目別には、塩さばは、最も需要の多い大型サイズが少なく、価格が高かった影響で入荷が減少した。またちりめんは、各海域で漁獲時期に変動が起きており、漁獲量が低下したことで入荷は大きく減少したもの、良品が少ないとから価格は低下した。

6月には、例年だと本チャンの塩紅さけの時期となるが、日露漁業協定で今年よりさけ、ます流し網漁が禁止となったため、代替えの漁獲方法等の交渉結果が注目される。

※生鮮魚：鮮魚、貝類、淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	千葉、愛媛で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ5%下回ったが、単価の安い小型サイズの比率が高かったことから、価格は7%下回った。
ま い わ し	富山、石川で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ16%上回ったため、価格は5%下回った。
さ ば	三重、長崎で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ12%下回ったため、価格は20%上回った。
す る め い か	石川、長崎で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ9%下回ったため、価格は22%上回った。
太 物	入荷量はきはだまぐろは5%上回ったが、本まぐろが4%，めばちまぐろが60%下回ったことから、総入荷量は前年同月と比べ6%下回ったが、きはだまぐろの価格が下がったことから、価格は6%下回った。
け ん さ き い か	長崎、山口で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ39%下回ったため、価格は20%上回った。
あ ま だ い	長崎、中国で水揚げされたもの主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ4%上回ったが、長崎産が減少して、低価格の中国産が増加となったことから、価格は前年並みであった。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ48%下回ったため、価格は16%上回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ21%上回ったが、不漁が継続品不足気味となっていることから、価格は6%上回った。
(加工水産物主要品目)	
塩 さ ば	千葉、ノルウェー産主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ20%下回ったため、価格は6%上回った。

身 欠 に し ん	アメリカ、ロシア産主体の入荷で、入荷量は前年同月と比べ6%上回ったため、価格は12%下回った。
-----------	---